

年間第六主日

2010.2.14

(ルカ 6:17.20-26)

今日のルカ福音書が伝えるイエスのおことばは、マタイ福音書の、「心の貧しい人は幸いである」ということばで始まる、私たちになじみ深い、いわゆる山上の説教のおことばと、内容としては重なり合っています。マタイ福音書では、「私が来たのは律法や預言者を廃止するためだと思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである」というイエスのおことばの持つ権威を強調するために、シナイの山上で主なる神から律法の掟を受けてそれを人々に伝えたモーセの姿を思い起こさせるように、イエスは山の上で、そのおことばを語っておられます。それに対して、今日のルカ福音書では、あえて山から平らなところに降りて、イエスは語りかけておられます。ルカ福音書がわざわざこのような前置きをするのは、マタイ福音書では、山の上で語られたイエスのおことばが、誰にでも聴くことの出来るようにとの意図をこめてのことかもしれません。もつとといえば、私たちの普段の生活の場において、このイエスのおことばを聞くようにとの配慮があつてのことかもしれません。

事実、今日の福音の6章の17節と20節以降の間に置かれた、今日の朗読では省かれている部分を見ると、おびただしい人々が、イエスの教えを聞くため、また病気を癒していただくために、各地からイエスの周りに押し寄せ、汚れた霊に悩まされていた人々も癒していただいていたので、「皆何とかしてイエスに触れようとした。イエスから力が出て、すべての人の病気を癒していたからである」と報告されています。その大勢の人々の中に身を置いて、その人々に交じって弟子たちは今日のイエスのおことばを聞いているのです。

「貧しい人々は幸いである、神の国はあなたがたのものである」。イエスのこのおことばは、そのような人々と、その人々と身を接するようにして、イエスのおことばを受け止めようとしている弟子たちに向けて語られています。日本語の訳では、「貧しい人々は幸いである、神の国はあなたがたのものである」と言われていますが、原語では「幸いである」の「である」ということばはなく、「貧しい人々は幸い、神の国はあなたがたのものである」と言われています。イエスは抽象的に「貧しい人は幸いである」と言われたのではなく、目の前にひしめくようにして、救いを求めている人々に向かって、「貧しい人は幸い、神の国はあなたたちのものである」と言われたのです。

それにしても、何故イエスは「貧しい人々が幸い」と言われるのでしょうか。このおことばを理解するための鍵は、マタイ福音書にはない、「幸いである」というお言葉と対になるように、つけ加えられている、「不幸だ」という後の方のおこと

ばにあると思われます。ルカ福音書は旧約聖書の中でよく用いられる、このような対比的な表現方法で、マタイ福音書が、「心の貧しい人は幸いである」というイエスのおことばで示そうとしているのと同じことを表現しようとしているのです。「貧しい人々は幸いである」というおことばと対を成すように語られている後の方のおことばを見ると、「しかし、富んでいるあなたがたは不幸である。あなたがたはもう慰めを受けている」と言われています。イエスは何故、富んでいる人は不幸で、貧しい人が幸いだと言われるのでしょうか。

富んでいる人たちは、今もう十分に満たされていて、今の自分たちの生活を享受することが出来ているので、イエスの周りに群がるように集って来て、何としてでも、イエスから出る力に触れさせていただこうという必要性を感じないということなのかもしれません。そのことを、イエスは不幸だと言っておられるのかもしれませんが。人々の中に、私たちの中に、神の国の福音をもたらそうとしておられるイエスの眼から見れば、この世の幸、不幸の判断基準は逆転します。イエスは、私たちを捕らえて離さないこの世の、幸不幸の価値基準を覆すお方として、私たちの前に立っておられるのです。

「貧しい人々は幸い、神の国はあなたがたのものである」。現代社会の経済システムを支え、そしてそれが生み出す、わたしたち全ての者を束縛している、幸不幸の価値基準をその根底から揺さぶるイエスのこのメッセージが持つ迫力を私たちはどこまで感じ取っているのでしょうか。「貧しい人々は幸い、神の国はあなたたちのものである」。このイエスの神の国の福音が持つ、大らかな新鮮さを、私たちはどこまで感じ取っているのでしょうか。私たちが真実イエスの福音の力に触れることが出来るなら、私たちは私たちがその中で生きている現代の経済システムとそれが生み出す価値基準の、金魚鉢の中のような息苦しさから解放され、大らかな神のいのちの水脈に向かって泳ぎ出でることが出来ることでしょう。イエスの神の国の福音はそこに向けての、私たち全ての者に対する力強い招きであるのです。

「貧しい人々は幸い、神の国はあなたがたのものである」。イエスは、私たちを覆うこの世の価値基準を根底から揺さぶる、この神のことばの力をどこから汲み上げておられるのでしょうか。今日のイエスのおことばは、第一朗読で聞いた、預言者エレミヤのことばと響きあっています。そして今日のエレミヤのことばは、旧約聖書の詩篇や預言書また知恵のことばの中に数多く見出すことの出来る、神に従う者たちの道を示す神からの基本的なメッセージです。マタイ福音書が強調するように、旧約の律法と預言者を完成するために来られたお方としてイエスは今日も私たちに、その神からのメッセージを告げておられるのです。だからそれは、神の国の福音を告げるおことばとなっているのです。

今日の福音には、貧しい人と富んでいる人の間の対比だけではなく、預言者と

偽預言者との対比も示されています。何が預言者と偽預言者との、この対比を生み出すのでしょうか。偽預言者の視野は誰にでも納得できるこの世のことに限られています。偽預言者は、如何にしたら今のこの世で幸せになることが出来るかを予測し、そのためには何が必要なのかを語ります。その預言は当たっていることもあるけれども、根本的な点で大切なことに目をつぶっています。それは、この世に起こることは、常に人間の予測を超えているということを見逃し、全てを人間の予測可能な事柄とすることによって、私たちの視界から神を締め出す偽預言者としての正体を現します。このような視点に立って、あらためて今日の第一朗読のエレミヤのことばを味わって見たいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高